

結核予防について

はじめに

みなさんは、結核という病気についてどのようなイメージをお持ちでしょうか？結核菌のことを正式な医学用語で *Mycobacterium tuberculosis* と言いますが、この菌の感染によって起こる病気が結核です。

まず、結核の歴史について少し触れてみたいと思いますが、最も古いものとしては、9,000 年前の地中海東岸の海浜の遺跡から発見された人骨に、結核性病変らしき痕跡があったことが報告されています。また、日本では、およそ1,800 年前の鳥取県の青谷上寺地（あおやかみじち）遺跡の人骨に結核がみつかっています。

この様にとても古くから存在している結核菌ですが、皆さんは結核についてどのようなイメージをお持ちでしょうか？おそらく、皆さんがよく知っているのは、肺への感染（肺結核）ではないでしょうか。実際には肺以外に全身のどこにでも感染を起こします（肺外結核）が、やはり肺結核が全体の8割を占めますので、結核といえば『咳が長く続いて、痰が出て、痩せてきて、人によっては咯血して、、、』と言ったイメージが一番浮かびやすいのではないかと思います。

日本では、江戸時代以降人口の増加に伴い、急速に結核患者が増えました。第二次世界大戦で日本が敗戦し、貧しく苦しかった時代にさらに結核患者は増え、不治の病として、そして亡国病として恐れられたこともあります。歴史上の多くの有名人も若くして結核で命を落としました。新選組の沖田総司、俳人の正岡子規、小説家の樋口一葉、作曲家の滝廉太郎、詩人の石川啄木、小説家・陸軍軍医の森鷗外、画家の竹久夢二などです。



現在でも注意が必要

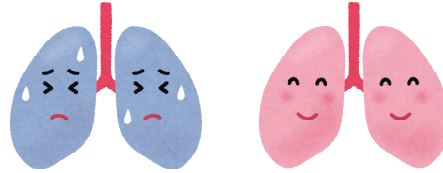
しかし、戦後の復興に伴い、衛生環境や国民の栄養状態が改善され、徐々に結核は減少しました。また、医療も発展し、現在ではきちんと治療を受ければ確実に根治できますので恐れる必要はありません。

では、医療が進んだ現在においても、何故まだ結核に注意が必要なのでしょう？それは、空気感染によって罹患する結核が、完全に根治出来ていない現状があるからです。さらに、現在、日本では人口10 万人あたり13.9 人の結核患者が発生しており、また、死因についても第28 位に該当しています（平成28 年厚生労働省データより）。日本は、先進国の中では、かなり高い罹患率になります（米国の約5 倍）。

特に、戦前・戦後間もない頃の流行期を過ごされた高齢者は、若い頃一度結核菌が体に入りこんだことがある方が多いのですが、体力のあるうちは、結核菌は活動出来ず冬眠の様な

状態で（潜在性結核）、体内でおとなしくしています。しかし、年を取り、体力が落ちてくると冬眠していた結核菌が目覚まし、本格的な結核症状を出し始めます（活動性結核）。したがって、日本では65 歳以上の高齢者に該当される方の結核発症率が高く、特に80 歳以上では65 歳未満の年齢層に比べて結核発症率が10 倍ほど高いというデータが示されています。

感染予防と治療について



結核は、感染後の治療は薬で可能なのですが、残念ながら未然に感染を防ぐための予防薬やワクチンはまだ開発されていません。また、空気感染しますので一人発症すると連鎖的に集団発症する可能性があります。したがって、結核と思われる症状に気がいたら、いち早く医療機関を受診すること（受診させること）が大切です。また、側にいる人はN95 という結核菌を吸い込まないためのマスクを適切に着用すれば、結核に感染することはありません。結核は、薬で根治できる病気ですし、適切なマスク装着で感染を防ぐことができます。全く恐れる必要はありませんので、結核を心配される方は、焦らず最寄りの医療機関を受診し相談してみてください。

※BCG は子どもの結核予防には効果がありますが、成人の結核に対する予防効果は高くないとされています。



<まとめ>

- ◆日本にはまだ結核があります。先進国の中で日本ではまだ高い発症率です。
- ◆特に、高齢者の以下の症状は結核かどうか医療機関で相談しましょう。
 - ・2 週間以上の長引く咳、痰（時に血痰）、あるいは風邪症状
 - ・長く続く微熱、倦怠感
 - ・徐々に進行する体重減少や食欲低下
- ◆ N95 マスクを着用することで結核菌を吸い込まない様にすれば感染しません。
- ◆ 結核は薬で根治できる病気です。恐れや偏見は一切不要です。

津山中央病院 総合内科・感染症内科 藤田浩二

お問い合わせ先：津山市健康増進課 TEL 0868-32-2069